

吹田市第3次みどりの基本計画策定検討会議（第1回） 議事要旨

【会議名】

吹田市第3次みどりの基本計画策定検討会議（第1回）

【開催日時】

令和8年3月3日（火）10:00～12:00

【開催場所】

吹田市総合防災センター（DRC）7階 会議室1

【出席委員】

武田委員長、上田副委員長、松本委員、横山委員、大和委員

【次第】

1 開会

（1）挨拶

（2）検討会議の役割及び傍聴等について

（3）委員等紹介

2 議題

（1）吹田市第3次みどりの基本計画の策定方針について

（2）市民アンケート調査について

（3）市民への周知・啓発方法について

3 その他

4 閉会

【配布資料】

・ 次第

・ 資料1 吹田市第3次みどりの基本計画策定検討会議設置要領

・ 資料2 吹田市第3次みどりの基本計画策定検討会議傍聴に関する取扱い要領

・ 資料3 委員名簿

・ 資料4 吹田市第2次みどりの基本計画（改訂版）概要版

・ 資料5 吹田市第3次みどりの基本計画策定プロセス（案）

・ 資料6 吹田市第3次みどりの基本計画策定検討会議

・ 資料7 吹田市第3次みどりの基本計画策定方針（案）

・ 別紙1 吹田市第2次みどりの基本計画（改訂版）の進捗状況調査結果

・ 別紙2 過去アンケート調査

・ 別紙3 アンケート設問（案）

【議事概要】

1 開会

(1) 挨拶 《省略》

(2) 検討会議の役割及び傍聴等について

事務局：資料1及び資料2の説明

(3) 委員等紹介 《省略》

(傍聴者の入場 (1名))

2 議題

(1) 吹田市第3次みどりの基本計画の策定方針について

委員長：議事に入ります。事務局より説明をお願いしたい。

事務局：資料6及び資料7の説明

委員長：資料の中にあつた策定方針案が今年度中に公表されるため、大きな方針として提示することに対して、御意見をいただきたい。質問でも結構。

A委員：基本的にみどりの質的な向上を目指す考えであると感じた。みどりの量自体が減ってきている中で、みどりの質的な向上に取り組むことは重要な視点。現行の計画では、みどりの量を指標としているが、みどりの質的な向上を評価する指標が必要になってくると思う。例えば、吹田市では最近、民間活力による公園のリニューアルを進めているが、これは公園の質的な向上の成果になっている。現状既に成果として上がっていることを評価していく視点も入れていくことが良いと思う。

また、市民の方と一緒に取り組む指標がある方が良いと思う。現計画に入っていないことは課題。例えば、みどりの活動に関わっている方ならアンケートで把握できる、子どもの視点でみどりにふれあつた人数を把握することも考えられる。そういった指標の設定を、今後検討いただいたら良いと思う。

委員長：みどりの質と量についての意見であつた。ほか、御意見ををお願いしたい。

B委員：みどりの質についての話は、私も同感である。Well-beingという言葉もあるが、まだ抽象的だと思う。例えば、わくわくする、健康、日々の気持ちの上がり下がりなども、計画の中に取り入れることができると良い。都市計画における開発の視点からみどりの話をすると、開発になると緑地の検討はどうしても後回しになり、残された土地で工夫いただくが、限界もある。特に都市計画・景観の施策とうまく緑の基本計画が連携・整合していくと良い。吹田市の景観アドバイザーもしているが、吹田市景観まちづくり計画では、市内に45の景域を設定して、特色を詳しく整理している。そういったまちの姿とみどりの関係から、ニュータウンでのみどり、工場の多い区域のみどり等、起こしていくアクションが変わってくると思う。まちの姿

とみどりの関係を丁寧に考えていくことができると、開発業者の方もメッセージとして受け取ることで、より良いものになると思う。

委員長：現状の緑の基本計画と景観の計画はリンクしているか。

事務局：現状の緑の基本計画は、景観まちづくり計画の区分とリンクしていない。

委員長：景観まちづくり計画の区分ともリンクした形で、みどりの基本計画で示せると良いと思う。

ほか、御意見をお願いしたい。

C委員：私も質を重視する考えに賛成。千里北公園の水遠池の前にサクラを植えていただき、満開になって素敵な場所になった。緑被率としては変わっていないが、すごく良くなった、みどりの質をはっきり示している事例だと思う。みどりの質向上を、どのように実現していくかを検討していけば良いと思う。

D委員：話題に挙がっているみどりの質は、世の中に求められていることである。吹田市として、みどりの質を突き詰めていくのは良いことだと思う。

現状に対する評価が重要。これまでのみどりの量の話についても吹田市で取り組んできた内容はきちんと評価してから、検討を進めることが重要。

みどりの質の評価として、そこに住んでいる人たちが、どういう暮らしをしているかと密接に関わってくる。生活の視点から考えると、みどりの質が評価できると思う。

みどりの効果（存在効果、利用効果、波及効果）を説明している図が分かりやすい。

熱環境の専門の視点からは、存在効果は、ある程度のみどりの量がないと評価できない。計画の重点はみどりの質にシフトするが、果たしてみどりの量の話が出てこなくて良いのだろうかと思った。策定方針案の中では見えにくかったが、ある程度みどりの量を確保した上で、さらにみどりの質の話が出てくることが望ましい。

目標年次について、いつを目標とするのが大事だと思う。長期的には2050年を見据えるとあるが、吹田市は人口が増えて、途中から減っていく。ステージが段階的に変わる特徴があるため、2050年だけを見据えると、社会情勢と乖離する可能性もある。

委員長：みどりの質は大事だが、量をおさなりにして良いのだろうかという話であったと思う。事務局からなにかあるか。

事務局：みどりの量について、一定確保できていると思う。ただ、第2次みどりの基本計画で設定した目標値が高く、達成できていなかった。他方、アンケート調査結果では、市民感覚として身近なみどりが増えているという回答であった。このような状況か

ら、みどりの質的な向上を目指していくことについて、転換まではいかなくても、質を重視していこうと考えている。みどりの量の目標としては、現状維持程度が良いと考えている。

委員長：第2次みどりの基本計画では、基本方針の中に「みどりを継承する」としている。今後はみどりの存在効果として、社会の変化に対応していくことも、セットで語ってはどうか。単に継承するというのではなく、存在効果をどう高めていくかを、分けずに一緒に考えてはという意味である。どういう場所にどういうものがつくられる、その時にはどういったみどりが必要なのかを考えられている内容になったらいと思う。D委員としては、公園配置の再編についてもイメージしておられると思う。公園配置の面的な再編について、みどりの保全だけでなく、新しいものを付け加えながら、みどりを継承していくという風に理解しても良い。みどりの量と配置、存在効果について、このような整理でよろしいか。

D委員：今、説明いただいたとおり。みどりを大きく増やしていくのではなく、今のみどりを残しつつ、アンケートの結果ともつなげていくことが良いと思う。劇的に変える話は現実的ではないと思う。新しく開発が伴う区域を対象として、何らかのプランを考えることが良いと思う。

委員長：公園の再編について、既に公園機能の再編には、ワークショップで取り組まれていると思う。国交省でも、公園の配置再編を進めると言っているが、どこも実現できていない。

吹田市では第2次計画（改訂）以降、近隣公園も1公園整備されている。公園配置の再編に取り組んでいくことができるなら、本当に使われない遊園ではなく、近隣公園くらいの規模の公園と小規模な公園の廃止とあわせて近隣公園の設置が検討できるのであれば望ましい。

計画期間について、2050年を目標として、一旦2037年度までと記載があるが、その間にも人口動態的な計画としてどう検討するか、現時点の考えはあるか。

事務局：計画期間と目標年次について、まだそこまで考えられていない。2050年は大阪府の計画期間、2037年度は今計画期間を10年間として設定したもの。

委員長：計画期間の中で、人口が増加する前半と人口が減少する後半で、モードが分けられるかもしれない。他方、人口増減が変化しても、2037年までであれば、計画の内容としては変わらないかもしれないとも思う。緑地の増減、住宅の増加から維持への変化などに応じて、みどりの考え方を考えることも配慮いただけるのであれば、検討いただければと思う。

D委員：2037年度という計画期間が記載されていることに、気づいていなかった。

委員長：計画体系が分かりにくいという意見があったが、細かい点まで充実していた計画であったため、現計画が優良事例に選ばれたという面もあると思う。例えば、成果目標として、重点プロジェクトにおける各取り組み目標も数値を目標に設定することは、他の市町村ではなかなか行わず、丁寧な目標設定は重要だと思う。

重点施策と重点プロジェクトの関係も丁寧にやっている。分かりやすさは大事だが、簡略化する計画が良いのか、考えていく必要があると思う。その中で、各重点プロジェクトの目標設定が、全体の総量目標と全く関係ない状態であることは課題であり、そこはリンクすると良いと思う。より優秀さが増した緑の基本計画として、全国の見本となる、少し変わった挑戦的な作り方に取られると良いと思う。

また、みどりの質について、市民の実感を伴う指標がすごく大事だと思う。表現として、実感に寄り添うというよりは、実感に沿ったという目標設定を行うことが大事だと思った。

時代的要請には、社会変化と環境変化も大きく影響する。地球温暖化、災害の激甚化もある。例えば神戸市では、暑熱対応も具体的に計画に盛り込んでいる。

吹田市では、すでに現計画に基づく個別計画として位置付けられる、主要な公園のパーク・マネジメントプラン等が策定されている。これら個別計画を、どう第3次みどりの基本計画と整合させていくかが重要だと思う。先駆的に個別計画に取り組んだことは、第3次みどりの基本計画に組み込みたい。逆に、個別計画との関係性を丁寧に見て、第3次みどりの基本計画に改めて位置付けることで、行政計画として担保する方が良いと思う。一方個別計画を改訂する際にも紐づけられるようにしておく必要がある。

私の印象としては、吹田の価値は「上質な暮らし」が一番に挙げられると思う。住宅都市としての上質な暮らしがあり、そこにみどりがいかに寄与できるかが重要になる。住んでいる中でのみどりのありようが、それぞれのまちのみどりのあり方に現れてくる。計画の実効性の中でも、言及されることが大事だと思う。そうすると、市民理解の促進として、さらに1、2歩踏み込める。市民とコミュニケーションのツールとして、第3次みどりの基本計画を位置付けても良い。現地での実践については、行政よりも市民の方が実践力は高い。より実践的・積極的に展開していくという内容も含めて記載できると良い。

視点2「計画の実効性」も大事な内容だと思う。緑の基本計画を庁内コミュニケーションのツールとして活用しようとしている市もある。事務局案に対して、関係課から意見を出してもらっただけでなく、庁内会議を頻度高く、外部からの有識者も何回か1度参加する形で開催している。庁内会議にウエイトを置くことは、実行性を高める点では意味がある。緑の基本計画を、きっかけとしての役割、実行性確保としての役割に活用できると良い。事業進捗の管理だけでなく、新しいチャレンジができる挑戦的な話し合いができています。そういったことも考えていただけると、実効性の高い計画になると思う。

ほか策定方針(案)の資料を見て、お気づきの点があれば意見をお願いしたい。

B委員：存在効果の議論として、千里ニュータウンでも千里山でも良好なスポットが残っている。みどりの量は減るかもしれないが、良好なストックと一体となった開発もありうる。千里緑地に隣接する土地で開発が行われた際、緑地と連続していなかった。他の場所でも区画整理しているが既存の農地よりも道路線形が優先されたこともある。今あるみどりが接続されていない等が起こらないように、今、みどりがいることが価値であり、維持する、増幅することを開発業者に伝えられると良い。市民という表現について、市民だけでなく事業者やサポーターを含めた方が良い。

委員長：具体的に記載する箇所としては、みどりの質的な向上の中に追加する形だろうか。

B委員：みどりの質的な向上の記載として、今ある公園緑地を充実させるが入るかもしれない。

委員長：新しい開発では、みどりの質向上と相乗効果を発揮させる開発を誘導するようなニュアンスを、可能であれば策定方針に記載できると良い。もし策定方針に記載できなくても、第3次みどりの計画の中で記載いただけると良い。

C委員：計画体系の分かりにくいを問題点としているが、吹田市民である私も、みどりの基本計画を知らなかった。花とみどりの情報センターについて、市民の7割が知らないという資料もあったが、私も知らなかった。ネイチャーポジティブなども大事だが、ほんの少しであっても、市民の日常的なアクションにつながる計画になれば良いと思う。

委員長：日本では情報公開と言って、市民が情報を得るために、わざわざ行動する必要がある。海外では言葉としてはデリバリーを使う。ひとりひとりに情報が届いているのか、市民の理解が得られているか、という点が大事になる。

A委員：今回の計画改定が、市民にとってみどりの活動をやってみたいと思える、既に活動している人には、こういう支援制度があるのかというように、実際に市民に使っていただける計画になると良い。全体的な計画のスタンスとして、理解してもらうというものではなく、市民と一緒に取り組んでいくというニュアンスに変える方が良い。市民が使える支援制度や、各部署で連携して垣根を超えていくみどりの活動を進めていただければと思う。

委員長：例えば概要版について、中学校での副読本のように読みやすい形にすることも良い。

D委員：全城市街化区域という表現について、どのような特徴を言っているのだろうか。この表現で良いのだろうかと思った。それよりは、吹田市の上質な暮らし、都心に近いというような言葉の方が良いのではないかと。

事務局：元々、吹田市らしさを表現したいと思い、特徴である全城市街化を記載した。ただ、吹田市らしさとなると、おしなべた表現となり、地域によっての差異が表現できないため、地域ごとに合わせたイメージとして、フィットという表現にした。

委員長：それぞれのエリアの暮らしにフィットする、というような表現もある。

D委員：それぞれの地域の特色に応じた、まちにフィットするという表現が良いのではないかと、全城市街化と聞くと、かなり都市化が進んだみどりが少ない印象になる。吹田市にはみどりが多いため、みどりが多という印象ともミスマッチがある。

委員長：住まい、暮らしといったニュアンスが良いのではないかと。

B委員：ちなみに万博公園も、市街化区域に含まれるのか。

事務局：市街化区域である。用途地域の指定がない。

(2) 市民アンケート調査及び (3) 市民への周知・啓発方法について

委員長：事務局より説明をお願いしたい

《事務局より資料 6、別紙 2、別紙 3 の説明》

委員長：会議の残り時間が少なくなってきた。次の議題についても説明いただき、2つの議題を合わせて、一緒に議論したい。事務局より説明をお願いしたい。

《事務局より資料 6 の説明》

委員長：アンケート調査について、平成 29 年度の調査と同じ設問はどれか。

事務局：問 16 の市民として取り組んでいる、取り組みたい活動を問う設問のみである。

委員長：次回の検討会議までには、アンケート調査も実施し、意見聴取も行っているのか。

事務局：その予定。

C委員：アンケート調査の属性について、1人暮らし、高齢化などの状況もある。アンケートの項目に家族構成、未就学児がいる、いないという属性を聞いても良いのではないかと。

問 4 について、不満と回答した人に向けてなぜ不満なのかを聞くと質の向上につながられるのではないかと。

問 7 市民からすれば、市の他の施策とは全部連携して欲しいと思う。市民に対する聞き方として、公園や緑地でどんなサービス・施設があったら利用したいかと聞いてはどうか。問 11 管理指針という言葉が難しい。行政の都合が、前面に出過ぎていのように感じた。逆に市民の生活から見て、木が大きくなりすぎているので、危

陰な木を切ることに賛成ですか、と具体的に聞く方が良いと思う。

問 12 について公園の統廃合という言葉に不安感を持つと思う。前向きな議論を進めるために言い換えてはどうか。イメージ図で示しているように、公園をつくりかえることが分かる点は良い。そこで、イメージ図のように、1つの公園は子ども用、1つの公園は大人用、というように公園を魅力的にリニューアルすることについてどう思うか、と聞く方が良いのではないか。公園の統廃合と聞くと、回答者に心理的な壁をつくってしまう。

問 13 ボール遊びできる公園は、近隣から強い反対意見が集まるかもしれない。もし公園利用のルールが柔軟になるならば、どんなことができたらうれしいですか、というように公園のニーズを引き出す聞き方もできる。

問 16 についても取り組みたいと思わない方に対して、なぜそう思うか理由を聞くと、次の計画のアクションに結びつくと思う。

市民意見聴取の方法について、イベントに来て、細かい内容のアンケートには答えてくれないと思う。何か他に簡単に参加できる方法を考えてはどうか。小学生の親等は、サイレントマジョリティだと思うので、そこに聞いてみてはどうか。小学校などは保護者向けの連絡網のツールを持っているので活用できるのでは。出前型の意見募集として、子育て世代はまさにサイレントマジョリティだと思うのでぜひ意見聴取をしてもらいたい。

A委員：全体に、政策を市民に評価をしてもらうようなアンケートである。市民ニーズを把握できるようなアンケートとする方が良いと思う。市民が参画したいと思うように、どういった取組・支援があれば参加したくなるかを把握できるような設問が良い。情報発信の方法について、市の施設を知らないという過去の回答もあったが、どうすれば市民に情報が届くのか、市民に聞いてみるもの良いと思う。

B委員：well-being の指標が、うまく第 3 次みどりの基本計画の中に入れて良いと思う。賛否を問う設問よりも、どんなニーズや利用実態があるのかを問う方が、第 3 次みどりの基本計画の中身につながると思う。アンケートにおけるみどりの定義を最初に説明する方が良い。住宅のみどりが含まれるのか等で、回答に迷うことになるのもつたいない。公園利用のマナーについて研究もしていたが、本来、公園は自由に利用できない場所ではないのだが、そのように認識している人が多い。そのため必ずしも禁止ルールがあることが前提ではないという説明をすると、建設的な意見が出ると思う。普及啓発の方法は、設問の最後にお話しを聞いてもいいですか、としゃべりたい人を募って、インタビューができると、より地域による差が出てくるかもしれない。スーパーマーケットのフードコートなど時間のある人にアタックするなどもあり得るが、この意見はあくまでアイデアである。

D委員：みどりの内容が、適切に伝わるのが大事である。最初に説明文があるのだろうか。

問 3 カッコの中（樹木や草花などの植物やそれを含む空間、及びこれらと一体と

なった水辺やオープンスペース)をみなさんイメージしながら読むと思うので、吹田市の代表的な写真を示す出すことも良いのではないかと。

問6 みどりや花の効果と役割が、今回、大事なのではないかと。策定方針で示す効果の項目と、対応して整理されている方が良いと思う。問6の選択肢について、「② ヒートアイランド現象」だと大きな話になるため、「暑さを和らげる」などの表現としてはどうか。また、期待していますかという問いかけは、今後がどうかという話であると思う。現状、どの機能に満足しているかという話も地域によって傾向が異なるかもしれない。欲しいみどりの機能を、問9のような聞き方で追加して聞いてみるかどうか。

問17 今後のみどりの量の話について、先に現状のみどりの設問(問4 身近なみどりに満足しているか)があったので、その設問と対になっており、連続している方が分かりやすいと思う。

普及啓発の方法について、ヒアリング等では難しいと思っている。1回のヒアリングで課題を聞くことは難しく、複数のヒアリングを組み合わせる必要があると思った。対象はサイレントマジョリティと説明があったが、現在とっているアンケートに表れていない層の意見がほしい。それが子育て世代か、高齢者か、若者ならSNSか、などターゲットを絞る方が良い。

委員長：問11、12、13と施策を啓発する内容を掲載しているが、意見聴取の中で啓発できれば良いと考えて、アンケート調査から切り分けても良いと思う。市民ニーズに対応して施策を検討すると、後追いになる。施策を先行して、検討できると良いと思う。

モニタリングの指標について、市民意識がどう変化していくかについて、問17のみどりの量を聞く設問かもしれないが、何かモニタリングの指標を設定できると良い。ただ、計画策定後に指標が設定されるため、今回のアンケートで設定することは難しいかもしれない。

サイレントマジョリティも大事であるが、まずは公園に行って意見を聞くなど、ヘビーユーザーの意見も大事だと思った。

委員長：予定の時間となった。後日でも、お気づきの点あればご意見をいただき、より良いアンケート、意見聴取を実施していただきたい。進行を事務局にお返す。

3 その他

事務局：本日の意見を踏まえて、それぞれ修正を行っていく。次回の検討会議の開催は11月頃を予定している。改めて調整をお願いしたい。

4 閉会